

第2回タスクフォース以降の管轄地域の物流状況について

6月から現在までの状況

【主要産地 5 カ所にヒアリングを実施】

- ・パレット化したことにより、荷役作業の負担軽減、時間削減となり、（距離に応じて）2カ所降ろしまで対応可能な状況。
- ・航空輸送、トラック輸送に関して日数の大幅増加等の問題は特段発生していない（花き）。
- ・運送業者への集荷手配について、昨年までは前日依頼が可能だったが、現在は2日前までに連絡が必要という状況。
- ・JRコンテナの輸送費上昇、船舶に係る輸送費も上昇（地域やルートにより5～10%）。
- ・花き輸送において、今年からトラック（単車）からトレーラーでの輸送について試験運行。
- ・非常に遅い台風10号等の気象災害の影響により、鉄道貨物及び船舶輸送の遅れや運休が余儀なく発生（長期化・急の輸送手段の変更）。

①5月時点で生じていた・想定された問題

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

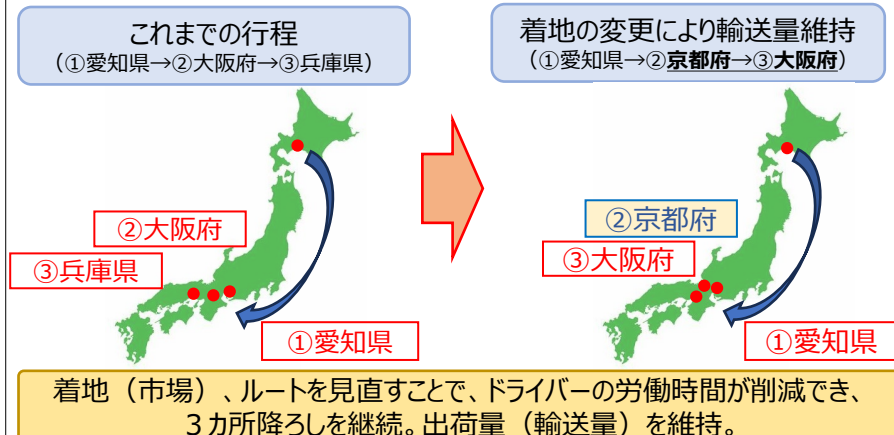
①5月時点で生じていた・想定された問題

- ・9～10月期の収穫繁忙期における輸送量への影響を懸念。

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

- ・2日前までに運送依頼が必要となり、急に輸送量が増加する場合など突発的な増車対応が難しくなることを懸念（市場需要等の増加など）。
- ・トラックドライバーの労働時間規制により、距離（時間）により、複数個所降ろしの行程が困難な場合がある。
- ・ばれいしょの圃場集荷に関して、今年は運送業者から集荷時間を指定されている状況。

改善事例：花きのトラック輸送におけるルートの見直し



①その後の対応・結果

②物流の工夫等

①その後の対応・結果

- ・前回TFで想定していた輸送量への影響は少ないが、今後も全体で工夫を続けて行く必要がある。

②物流の工夫等

- ・3カ所降ろしについて、従来より距離が近い先（市場等）へ行程を変更することで対応。
- ・運休の連絡を受けた段階で、停止した地域でトレーラーを手配し、近場の市場等に運ぶようにしている。
- ・品質の低下が早いスイートコーン等に関しては、船での輸送に変更した。
- ・大型車両の導入を拡大、稼働台数の削減を行った。
- ・集荷施設の大型車両受入設備の整備を行った。
- ・タブレット端末を利用し、集荷場所（圃場）の位置情報や指示など、運送の効率化を行った。
- ・馬鈴薯の選果機の更新時期を迎えており、新たな機器（AI選別、パレタイズ化）を導入する構想。

さらなる
流通改善に向けた

- ・施設等の補改修
- ・梱包資材等の工夫
への関心が高い



設備更新前の旧型パレタイザー



ニーズに応える多様な段ボール
サイズが流通効率化の妨げに

第2回タスクフォース以降の管轄地域の物流状況について

6月から現在までの状況

各産地（JA）

・地域の実状に応じ、集荷場の集約、集荷・出荷時間の変更、パレット化、中継輸送、出荷先市場の絞り込みなどの取組によって、出荷を続けている状況である。

・6月上旬には、関東の運送事業者が青果運送から突然撤退したため、一部の産地では、集荷場に一時的に荷が滞留した。

・旧盆前（8月上旬）に、トラックを必要台数確保できなかったことから、保管して旧盆明け出荷したところ荷の痛みにより市場側からクレームがあった。

・トラックを確保できなかったことからJR貨物を活用した。また、トラックの不足が懸念されることからJR貨物の活用拡大を計画している。

・トラックの不足感があるなか、これまでは出荷できたものの、来年は、トラックが確保できないのではないかとの心配の声がある。

①5月時点で生じていた・想定された問題

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

○青森県

- ・りんごの出荷をパレット化したいが、りんご段ボールサイズに合ったパレットがない。
- ・長いも・ごぼうは、11型パレットに段ボールサイズが合わない。

○岩手県

- ・全農経由で手配している関東の運送事業者が青果輸送から撤退。

○宮城県

- ・北海道向け花きの輸送が困難になったことから、東京の他市場へ出荷先を変更する必要がある。
- ・11型パレットに合う段ボールサイズへ変更する必要がある。

○秋田県

- ・週末の出荷にあたり運送事業者から帰り荷がないとの理由で断られることがあった。

○山形県

- ・運送事業者から集荷時間の短縮依頼があった。

○福島県

- ・雑パレットの流通量が減少し、パレットが不足。

①その後の対応・結果

②物流の工夫等

○青森県

- ・りんごの段ボールサイズ規格にあった専用パレットを作成し、パレット出荷を増やすとともに、JR貨物コンテナでの輸送も増やす計画。
- ・長いも・ごぼうは、専用12型パレットの導入と回収の仕組みづくりを検討。

○岩手県

- ・JAが独自にトラックを手配し、出荷先も変更して出荷。

○宮城県

- ・北海道向け花きの輸送が困難になった産地が、モーダルシフト（トラック→航空機）により北海道への出荷を航空事業者と検討中。
- ・全農みやぎが主導して各JAの長ねぎの段ボールサイズを11型パレットに合うサイズに変更。また、ほうれん草など他品目も検討中。

○秋田県

- ・出荷量を調整し、平日の出荷量を増やした。

○山形県

- ・拠点集荷場を集約し、トラックが集荷場を回る時間を削減。

○福島県

- ・11型レンタルパレットを導入し出荷。出荷に使用したパレットは、レンタル業者が卸売市場から回収。

第2回タスクフォース以降の管轄地域の物流状況について

6月から現在までの状況

品 目 … 青 果 物	○運賃	・フェリー、トラックの運賃が値上がっている。(茨城県)・値上げ要請は前年比数十%で輸送コストが上昇。(長野県)
	○運送時間	・運送会社と交渉を重ね、値上げ。現在のところ滞りなく物流は対応できている。(山梨県)
	○方法	・北海道への輸送は24年になっても大きな問題になっていない。(群馬県)・夏の九州出荷は一晩だったのが2~3日掛かるので見送った。(埼玉県)
	○集荷	・大型トラックの確保が難しく、長距離輸送ができない。(茨城県)
	○パレット	・現在市場の近くに中継点を設けるなど検討しているが、資金的なこともあり着手できていない。(千葉県)
		・基本11型パレットを使用。(茨城県)・11型パレット以外は消費地の卸売市場で受け付けなくなっている。(長野県)
	(その他)	・県や国の関係地方機関、県内業界団体等の参画による持続可能な物流の確保に向けた共同宣言を実施。(埼玉県)

①5月時点で生じていた・想定された問題

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

- 茨城県
 - ・トラックドライバーの人手不足や荷待ち時間の短縮のため、積込・積降時間の削減が必要。
- 栃木県
 - ・パレットは市場が用意したものを使用し、JAにおいて常備しているが、屋内に置くスペースが少なく、保管場所に苦慮。また、木製のパレットを中心に破損したパレットの廃棄に費用がかかる。
 - ・農産物の出荷等階級が多いことや、パレットとコンテナや出荷箱のサイズが合わないなどによりトラック積載率に影響あり。
- 群馬県
 - ・時間の制約で、今までの集荷場全てを回って集荷されなくなったり、集荷日の減少、出荷先の限定。(輸送できない地域が発生)
- 千葉県
 - ・価格設定は、運送会社と産地のJAが行っており、昨年から値上がり。
- 神奈川県
 - ・運送業者の労働時間が1日13時間に限定されたことで、出荷時間帯が限定。また、出荷時間が遅くなると配送先が限定。
 - ・JA直売所への運送は、JA自らが行っているが、学校給食用物資の運送と並行して行うため、職員の負担が大きくなり、ドライバーが足りない時がある。
- 長野県
 - ・積込拠点が多岐にわたり、野菜やきのこ類は場合によって積み合わせが必要。
 - ・当日集荷・当日出荷のため数量が確定せず、トラック台数の確保が困難。
- 静岡県
 - ・運賃については、メインの運送業者から通常運賃に集荷運賃の加算を求められ、10月から実施。これにより市場出荷経費が20%増。

①その後の対応・結果

②物流の工夫等

- 茨城県
 - ・荷待ち時間削減のため、ロットが少ない品目については、JAがアルバイトの人件費を負担してあらかじめパレットへセットし、積込時間を削減。
- 栃木県
 - ・農産物の出荷等階級やパレット及び出荷箱等のサイズ統一の検討。
- 群馬県
 - ・ドライバーの出発時間を早めるといった運送の関係から、すべての荷物が集まる前に出荷量を決定し、荷造りや出発を早く行うようシステムを変更。
- 千葉県
 - ・運送会社との契約は旧JA単位でしているが、同じ運送会社を利用して、ロットを固め、まとめて配送する等コストカットを検討。
- 神奈川県
 - ・1回の配送による出荷先を4か所から2か所に減らして対応。次年は、遠方の便数を減らし近くを増やすことを検討。
 - ・ドライバーが足りないときは、臨時傭員を手配して対応。
- 長野県
 - ・積込拠点を集約。また、1回の輸送につき、荷卸し先を2か所までに限定。
 - ・果実は、当日集荷・当日出荷から前日集荷・当日出荷に変更。
- 静岡県
 - ・集荷運賃は1か所ごとに設定されるため、現在4か所ある集荷場を2か所に集約し、閉場した集荷場に今まで出荷していた生産者分については、JAが集荷を行うことで、経費の削減を図る予定。

第2回タスクフォース以降の管轄地域の物流状況について

6月から現在までの状況

【産地】

園芸作物全般 … 高速道路の使用に伴う運賃コスト上昇の対応として、生産コスト上昇分も含め取引先へ価格転嫁を提案。

青果 … ドライバーの1日あたり拘束時間の関係で販売日を1日遅らせた。運賃コストの上昇の対応として、品目の出荷日を調整し小ロット品目と大ロット品目との混載を検討中。

【卸売市場】

青果 … 中継をすることが増え、中継手数料の発生や中継分の仕入数量の調整が生じた。少量集荷で運賃負担増のため、隔日集荷に切替え。輸送時に品質低下が発生。産地の収穫量が少なくなると、大都市出荷が優先されるため、他産地・他市場経由に切替え。

水産 … 納品までの日数が延長し、受注期限の前倒し、在庫調整、産地の切替えで対応。温度管理可能な中継地不足や輸送時に品質低下が発生し、仕入数量を施設に合った数量に調整、荷主に輸送途中の温度管理の改善を依頼。中継のため運賃が増加し、遠隔地のものは入荷が難しくなり、遠隔地から仕入れる品目は高単価な魚種に限定。

花き … 積載率が低い仕入できなくなり、他産地・他市場経由に切替え。

①5月時点で生じていた・想定された問題

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

【産地】

- ・（新潟県産青果全般（特にえだまめ、日本なし等））前年度までの輸送方法では、運送業者の1日あたりの拘束時間を超えてしまう恐れがある。
- ・（富山県産園芸作物全般（特にタマネギ等））高速道路の利用に伴う運搬コストの上昇。
- ・（石川県産青果）翌日の朝一での市場への納品が難しく、翌日販売が行えない状況が続いている。運搬コストが上昇。

【卸売市場】

- ・（埼玉県産ホウレンソウ）集荷が少量のため運賃負担が増えた。
- ・（兵庫県産レタス）産地の収穫量が少なくなると、大都市への出荷が優先され、北陸に出荷されない可能性がある。
- ・（県外産水産物）納品までの日数が長くなった。
- ・（北海道産生ニンジン及び生サンマ）中継地点を経由することとなったが、輸送途中の温度管理の問題により、品質低下が発生。
- ・（アヲほか九州産水産物）運賃高騰により販売単価の安い魚種は販売単価に運賃分を上乗せ出来ず利益確保が難しくなった。
- ・（九州産パンパスグラス（切花））積載率が低い仕入できなくなった。
- ・（西日本産青果）北陸において東北の市場への中継をすることが増え、収容力の限界を超えるおそれ。
- ・（北海道産ダイコン）北陸において近隣市場の荷を中継したところ、品質トラブル発生。中継品目や数量の調整に苦慮。

①その後の対応・結果

②物流の工夫等

【産地】

- ・（新潟県産青果全般）輸送時に休憩を取り、1日あたり拘束時間を法定限度内に収める。2日目販売から3日目販売に変更した。
- ・（富山県産園芸作物全般）生産コスト上昇分も含め取引先へ価格転嫁を提案した。
- ・（石川県産青果）翌日納品自体は可能なため、翌々日の販売での対応含め、市場との連携を密にとり出荷。各品目の出荷日を調整しながら小ロット品目と大ロット品目との混載を検討中。

【卸売市場】

- ・（埼玉県産ホウレンソウ）隔日集荷に切替え。
- ・（兵庫県産レタス）他産地・他市場経由に切替え。
- ・（県外産水産物）受注期限を1日前倒し。
- ・（北海道産生ニンジン及び生サンマ）荷主に輸送途中の温度管理の改善を依頼。
- ・（アヲほか九州産水産物）利益確保できる高単価な魚種のみ仕入れることとし、安価な魚種は近場からの仕入れに切替え。
- ・（九州産パンパスグラス）他市場・他産地経由に切替え。
- ・（西日本産青果）対応方針検討中。
- ・（北海道産ダイコン）対応方針検討中。

6月から現在までの状況

青果

- JA間の横持便と、産地と消費地を結ぶ幹線便を切り分けた実証試験の結果を踏まえ、幹線便ではドライバーの拘束時間削減、積載率向上等の効果[愛知県]
- 単協からの直接出荷を集荷拠点経由の出荷に変えたためリードタイムが1日延長[岐阜県]
- 集荷から出荷までの作業工程を同一パレットでできるよう独自サイズを使用中[岐阜県]
- 県内の物流会社ごとの得意な地域、集荷・納品場所の融通等を把握し、物流会社を使い分け[三重県]

加工食品

- 通常時はトラックを確保できている[D,E,F,G,H,I社]
- 繁忙期は長距離輸送トラック確保が難しい[F,I社]
背景：運送手配を依頼していた会社が事業から撤退[I社]
運送会社の人手不足による遅延[I社]
- リードタイムの延長なし[D,H社]
- 長距離輸送はリードタイムが延長(要望含む)[E,F,G,I社]

①5月時点で生じていた・想定された問題

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

青果

- 横持便では集荷拠点での検品に不慣れなためドライバーの待機時間が増加[愛知県]
- 横持便が集荷拠点に集まるため、繁忙期は集荷拠点のキャパシティ不足、フォークリフト不足が見られる[愛知県]
- 産地のパレットに頼りすぎで市場内でパレットが不足する場合がある[愛知県]
- パレットサイズが独自なため市場での管理が煩雑となり紛失や返却されない場合がある[岐阜県]

加工食品

- 時間外労働の上限規制は年総量のため年末のトラック確保に懸念[F社]
- スーパーの物流センターへの納品時に利用している予約システム(待機時間短縮のために導入)について、希望する時間に予約できないため帰り荷を積みず積載率が低下[F社]
- 原材料の納品事業者からパレットでの納品要望があるが、フォークリフトの導入等の費用面に対応が困難[H社]

①その後の対応・結果

②物流の工夫等

青果

- 横持便の集荷拠点での待機時間削減のため、より詳細なデータを収集・分析する実証試験を実施中[愛知県]
- 今後、繁忙期でも作業可能となるよう集荷拠点の拡大を検討中[愛知県]

加工食品

- 一部の商品に価格転嫁[F,G,D,H社]
- 毎日出荷から週3回出荷への変更により運送費を削減[E社]
- トラックの円滑な確保のため特売等の大口発注情報を運送会社と共有[F社]
- 納品時に利用している予約システムの柔軟な運用を取引先に要望[F社]
- 繁忙期の長距離輸送は、事前取引先と納品日等の交渉を検討中[I社]

第2回タスクフォース以降の管轄地域の物流状況について

6月から現在までの状況

【概況】産地においては、配送費の値上げ、輸送に要する日数・時間の延長、効率化のための統一パレットの導入などの課題がある一方で、販売先との交渉により、販売価格に反映できた事例も出始めているところ。夏野菜など、出荷最盛期を終えた農産物についても、出荷先の集約や出荷作業の前倒しなどにより、運送業者からの要望に対応。

各産地（JA）

- ・米について、今年度から本格的に全農による統一フレコンの取組を開始した。（京都）
- ・主な出荷先が関西圏の市場である野菜について、当日中の輸送が可能であるため、6月以降特段の影響はない。（奈良）
- ・水なすについて、毎日出荷を隔日に改めるとともに、複数の卸売市場への出荷を見直し、大阪市中央卸売市場本場にのみ出荷し、他の市場へ配送してもらうことにした。（大阪）
- ・全品目において、10月よりサーチャージ料として6%の運賃値上げが決定した。（和歌山）
- ・6月にピークを迎えた梅・小玉すいかと9月にピークを迎える柑橘類について、パレットでの荷受け・選果・配送を開始した。（和歌山）
- ・ししとうや山椒など少量品目の輸送について、運送会社から値上げ要請があり、生産者組織と相談し値上げに応じた。（和歌山）

等

①5月時点で生じていた・想定された問題

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

- 滋賀県
 - ・育苗について、これまで委託していた運送会社から値上げの見積書が提示された。
 - ・野菜の少量多品種輸送に伴うトラックへの積み降ろし時間が長い。
- 京都府
 - ・物流コストが上昇した（4月に運賃が約10%上昇）。
 - ・京夏ずきん・紫ずきん（枝豆）について、運送会社から集荷時間を3時間前倒すよう要請があり、生産者による出荷準備やJAへの数量報告等の時間を早める必要が生じた。
- 大阪府
 - ・水なすについて、遠距離市場への小ロット配送に運送会社から難色を示された。
 - ・ぶどうについて、運送会社から長距離輸送へ難色を示され、各市場への直送が困難になる懸念がある。
- 兵庫県
 - ・ピーマンや朝倉さんしょについて、運賃の値上げ、運送便の確保、少量輸送に伴う非効率等の問題を懸念している。
- 和歌山県
 - ・すいかは、箱の種類が多く、大きさも異なるため、効率よくトラックに積めない。

①その後の対応・結果

②物流の工夫等

- 滋賀県
 - ・一部の輸送を安価で取引できる運送会社と新たに契約を結ぶことなどによりコスト削減を図ったが、運送費は昨年度と比べ1.43倍となった。
- 京都府
 - ・販売先への値上げ交渉を行い、約半数は販売単価に反映できた。
 - ・作業時間を早め、運送会社の要望時間に間に合うようにした。
- 大阪府
 - ・市場の了承を得て、毎日出荷を改め、JAで2日分保管し、隔日出荷することにした。
 - ・代表市場の卸に市場間転送を依頼し、輸送コストは上昇したが、出荷先は維持できている。
- 兵庫県
 - ・これまで夏場のピーク時には4台手配していたが、今年度は3台しか確保できない日が多々生じ、運送便の集約と荷の抱き合わせにより対応した。
- 和歌山県
 - ・輸送効率を高め経費削減を図るため、箱サイズの統一等を検討する。

第2回タスクフォース以降の管轄地域の物流状況について

6月から現在までの状況

○各産地（JA等）

・一部の産地については、集出荷場の統合や出荷先の絞り込み、荷待ち時間短縮や積載率向上のための取組、中継輸送などを進める一方で、遠方への出荷割合の縮減といった動きもあるが、全体として、大きな問題は生じなかった。

・これから出荷時期を迎える品目は、今後の運賃改定要請やこれまでのように運送業者を手配できるか懸念。

①5月時点で生じていた・想定された問題

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

○物流の効率化に関する問題

・集出荷場や出荷先が多く、物流上、非効率
（鳥取、島根、広島、徳島、愛媛）

・積載率の向上や荷待ち時間等の短縮
（岡山、広島、山口、徳島、高知）

・リードタイムの増加に伴う農産品の鮮度維持（岡山）

○遠距離輸送への対応

・これまでどおりの遠距離輸送の継続ができるか懸念
（山口、香川、高知）

①その後の対応・結果

②物流の工夫等

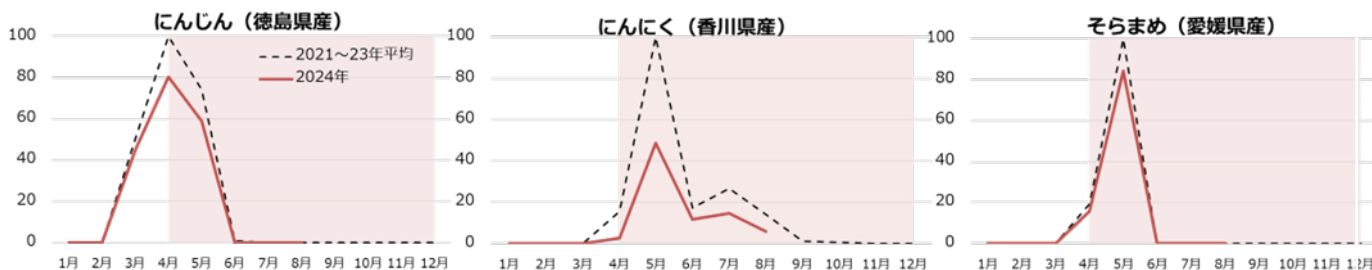
・集荷場所の統合を実施または検討中（広島、徳島、愛媛）
・出荷先の絞り込みを実施または検討中（鳥取、島根）

・予冷库の追加導入により、荷待ち時間の短縮とともに、計画的かつ安定的な出荷の実現により積載率を向上（広島）
・荷待ち時間の短縮のため、集出荷場への持ち込み時間を前倒し（山口、徳島）
・それまでトラックドライバーが行っていた積み込み作業を集出荷場側が実施（岡山、高知）

・鮮度保持装置の導入や日持ちがする品種への変更（岡山）

・遠方へのお荷は中継基地までの輸送とし、荷受けが委託した運送会社に引き渡し（高知）
・売上に対する運賃割合が上昇している中、所得確保のために遠方へのお荷を減らし、比較的に近場へのお荷へシフト（山口、香川）

▶ 遠隔中央卸売市場地向け出荷量の変化（2021～23年の月次出荷平均量と2024年の月次出荷量の比較）



- （注） 1 遠隔中央卸売市場は、中国四国地域から遠隔（北海道、東北、京浜、沖縄地域）に位置する主要中央卸売市場。
2 出荷量は、「2021～23年の月次出荷量平均の最大値=100」として指数化している。
3 2024年8月以降の月次出荷量データは未取得。
4 左記の遠隔中央卸売市場地向け出荷量の減少要因について、関係者に聞き取ったところ、作況や価格によるものであり、必ずしも物流2024年問題の影響によるものではないとのことであった。

6月から現在までの状況

- ・6月から8月までの物流に大きな問題なし。
- ・酷暑や端境期の出荷量減少により、積載率が低下したことを受け、集出荷先の集約、出荷日の調整、混載等の対策を講じた結果、積載率が向上。
(佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県)
- ・集荷当日出荷では数量が事前に確定せず、トラック手配に無駄が生じることから、運送会社からの要請等により予冷をしたうえでナスは翌日、なしは翌々日出荷に変更。(福岡県、大分県)

①5月時点で生じていた・想定された問題

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

○パレット化

- ・選果ラインの改修、段ボール形態の見直し等が必要。
(福岡県、熊本県、宮崎県、鹿児島県)



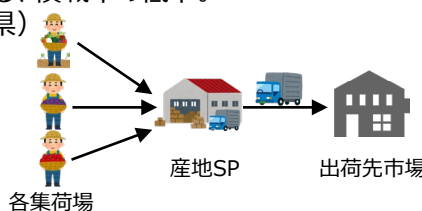
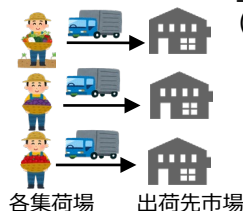
①その後の対応・結果

②物流の工夫等

- ・補助事業を活用し、柑橘類・馬鈴薯の選果ラインを改修予定。
(福岡県、熊本県、鹿児島県)
- ・みかんについて、11型パレットに合わせた段ボール(5kg→4kg、10kg→8kg)に変更中。(熊本県、宮崎県)
- ・11型パレットに合わせた段ボールの設計図を11品目について作成済。
(福岡県)
- ・ピーマン等でパレット輸送時の積載効率や品質への影響等について輸送試験を実施中。(宮崎県)

○産地集荷場・
出荷先市場の対応

- ・産地集荷場の集約化、出荷先市場の集約化が必要。
(福岡県、佐賀県)
- ・市場での荷下ろし作業の効率化及び作業分担の明確化が必要。(佐賀県、運送業者)
- ・生産量の減少による、積載率の低下。
(福岡県、鹿児島県)



- ・対応可能な場所から、産地集荷場及び出荷先市場の集約化を実施中。(福岡県、佐賀県)
- ・市場に対し、荷下ろし作業の効率化及び作業分担の明確化を要請中。
(運送業者)
- ・これまでの直送から、産地ストックポイントを活用した荷物の集約化により積載率の向上を図るとともに、新たな産地ストックポイントの整備も計画中。
(福岡県、鹿児島県)

○トラックドライバー
の労働時間

- ・時間外労働規制及び繁忙期にトラックやドライバー不足による運べない事態を懸念。
(福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県、運送業者)



- ・ドライバーごとの労働時間を把握し、時間外労働上限規制を考慮した配車計画の実施。(運送業者)
- ・ドライバー確保のため、トラックごとに出荷市場を限定した配車計画を策定。
(熊本県)
- ・フェリーを活用し、ドライバーの拘束時間を短縮。(大分県)
- ・産地ストックポイントの活用や混載による積載率の向上により、稼働トラックを削減。(福岡県、鹿児島県)

第2回タスクフォース以降の管轄地域の物流状況について

6月から現在までの状況

- 島嶼県である沖縄には長距離陸送がほとんどなく、6月以降も大きな影響は受けておらず、現在まで夏季の出荷は問題なく終えている。
 - ▶ 2024年問題の影響を受けるのは県外における物流（産地から県外拠点（空港、港湾）・県外消費地までの物流）。
 - ▶ 2024年問題への対応として、昨年度以前から、県外での輸送ルートの開拓、新たな輸送事業者の確保などを進めてきた。
 - ・ある生産者団体は、県外において2024年問題により、これまで利用した輸送業者・輸送ルートでは、輸送コストの増やドライバーの確保が困難となり、これまで届けることができた消費地まで届かないことが想定されたことから、新たな輸送業者・輸送ルートを確保する取組を行ってきた、とのこと。
 - ・新たな輸送業者を確保していく一方で、これまで取引のあった業者を含め、こちらの条件に見合った業者の確保が難しくなってきた実感がある、とのこと。
- 県内で生産できる農産物は種類・量ともに限られており、多くは県外に依存。
- 花きについては、11月以降が本格的な出荷シーズンとなることから、物流の状況に変化が出てくるのは10月以降と想定。
- 青果については、花きに比べ県外出荷が多くはないため、今後も大きな動きはないと見込んでいる。
- 物流生産性の向上に向け、大ロット化やパレチゼーションの導入・実施の必要性は感じているものの、経済的な面や管理・保管等の面から具体的な動きは鈍い。

検討課題

 - ▶ 共同輸送、大ロット化による積載率の向上に向けて、同業他社間での協議の持ち方、取組をどのように進めていくか（旗振り役が不在）
 - ▶ パレット化によるメリット（作業効率の向上）とデメリット（積載率の減少、適正な管理システム・ルールが未整備）の比較検討
 - ▶ 県内産地から県外消費地まで、商品の鮮度を保持するための新たな鮮度保持技術の情報収集・実証試験導入、中継物流拠点（冷蔵施設完備）の整備、使用の検討
 - ▶ 物流生産性向上に伴うコスト上昇分を販売価格に適正に転嫁できる仕組み、消費者等の理解醸成への取り組みの強化

①5月時点で生じていた・想定された問題

②出荷最盛期前に生じている・生じていた問題

- ・流通コストが航空輸送より経済的である船舶輸送へ切替えを進めるには、品質を保持するための環境整備が課題。
- ・航空便から船舶輸送への切り替えに際し輸送期間（リードタイム）の伸長の対応が必要だったことから、新たな包材（フレッシュライナー）を導入し鮮度維持期間を伸長したが、その分の農家負担が増しており、コスト自体の低減又は農家上昇コストの適正価格への価格転嫁を図ることが課題。
- ・県内（特に本島北部）の集荷物について、荷が上限量にかかわらずトラック1台で運ぶ形態となっており、運送業者から契約内容の見直し（トラック1台払い等）の検討が求められる等、実態にあわせた集荷体制の整備が課題（物価高、燃料費高騰の影響）。
- ・台風の影響により、船舶輸送ができない場合の保管体制が課題（台風の進路によっては出港できず1週間以上輸送できない場合がある）。

①その後の対応・結果

②物流の工夫等

- ・県外拠点港への到着後の積み替え等作業を円滑にする中継物流拠点の整備の可能性を検討。
- ・物流拠点への「引き取り物流」を進めることで、荷主サイドの負担を減らす試みを検討。また、更なるコスト低減を進めるために新たな鮮度保持技術の情報収集、実証試験導入を検討。
- ・農産物の集荷日を減らし1回当たりの集荷量を増やす工夫等を検討。
- ・台風時の対応として、保管スペースに入らない場合はシャシを借りて一時保管するケースもある。また、停電に備えるため、非常用電源の整備も検討。